

わたしは6項目について質問いたします。

最初に河合谷小学校の閉校に関して、です。

直接請求にまで及んだ町民の声を無視して、町は河合谷小学校の閉校を推し進めようとしています。わたしは、河合谷小学校の閉校の決定は、人口減少と高齢化が進む山間地域を切り捨てることになると訴えてきました。しかし臨時議会においても閉校が議決されました。河合谷小学校を平成19年度に閉校にするというこの決定により、さまざまな問題が置き去りにされています。町民との協議の場を持たず、問題をたくさん残したままの閉校は、今後新たにさまざまな問題を生み出すだろうと思われます。小学校を失う辺地地域に予想される新たな問題に対して、今後、町は大きな責任を持たねばならないはずで

す。小学校がなくなるという大きな犠牲を払うことになりつつある河合谷地域の将来への、保障はなんですか。学校が無くなった地区の発展に、町はどんなビジョンを持っていますか。具体的な取り組みを考えているのですか。町長に質問いたします。

続いては、教育長に質問します。

現在、河合谷小学校へ通う児童や保護者の中には、来年度、校区外の、少人数の学校への通学を希望している人もいます。児童や保護者が、来年度、現住所の校区外の学校へ通学する希望がある場合、どう対応するのですか。もし校区外の小学校の通学が今回認められたとしても、その児童の弟や妹も同じ学校に通わすことができるのか。兄弟を同じ学校に通わせたいと思う保護者の、不安な声にどう対応するのをお聞きします。

今後、保護者との話し合いをどう進めるのかということも気になります。保護者がきちんと意見をいうことができる、保護者全体とのそういった話し合いの場を持つことが急務だと思いますが、教育委員会は保護者との話し合いの場を、どのような形で持つつもりか。突然の、個別による相談に、戸惑う保護者もいるのではないかと。保護者が、はっきり意見が言える、そういった話し合いの場を必ず持っていたきたい。どのような形で保護者との話し合いの場を持つのか、教育委員会としての考えを明らかにして欲しい。

次に交通の便を確保できるのかという問題に関して。子どもたちが安全、安心して通学できるようにするために、どうするのか。スクールバスは児童の家の前まで行くのか？

スクールバス、混乗バス、路線バスでしっかり対応しなければならないと思うが、それを実行できるのか。通学環境の整備を、不備なくしなければならないし、必ず実行していただきたい。

最後に、特認校制度の他の小学校への適用予定はあるのかということをお聞きします。

小規模特別認定校である河合谷小学校を希望して、他の校区から通学している児童や保護者から、町はいま突然、学校を取り上げてしまうということをしています。

この定例議会にも、保護者から、特認校制度の存続の請願が提出されています。特認校制度が、児童の教育に有効であり求められている証拠だと思いますが、教育委員会としてはどう考えていますか。

また、この質問には町長にもお答えいただきたい。町長は9月の定例議会で、特認校の存続は考えていないといったように記憶しているが、今もそうか確かめたい。

第2項目、今年で3年目を迎えたオーストラリアへの中学生海外派遣交流事業についてお尋ねします。

わたしは今、手元にある資料を見ているのですが、  
平成17年度にこの事業に使われた総額は、5,925,280円約  
18 5,718,300円  
19 6,115,040円に間違いはありませんか。

その中でよくわからない項目があるのでお聞きします。  
ウェルカムセレモニー費、  
フェアウェルセレモニー費、  
引率者と招待夫婦との表敬訪問先での懇談会、  
参加者と引率者のセレモニー費（2日目、6日目）についてです。

セレモニーや懇談会が何回もあったようですが、具体的にどのようなことをするのですか。そもそも、たびたびのセレモニーは必要なのでしょうか。各セレモニーに関わる金額はいくらですか。セレモニーに関わる総経費を年順にご説明ください。

ウェルカムセレモニー、すなわち歓迎会のことですね、フェアウェルセレモニーはすなわちさよならパーティのことですね。これらは社会通念上、客を迎える側が用意するものではないかと思われませんか。近い将来、お返しにオーストラリアの中学生が津幡町を訪問する際には、オーストラリア側が自分たちの歓迎会の費用を持つことになるのでしょうか。

続いて、平成19年度の経費で、燃油サーチャージ料、455,000円、  
移動費用（ホスト宅回り含む）168,000円  
アクティビティ（活動）付加金 100,000円  
の具体的内容は何か。

引率者3名、中学生10人の6日間の海外派遣交流事業に総額、約600万円がかけられています。決して軽いとはいええない金額を町は負担していますが、どのような効果が上がっていますか。実際に参加した中学生にしてみれば、海外での活動は生涯に残る貴重な体験であったらと想像されます。しかしながら、町として海外交流派遣事業のお金の使い方には、疑問があります。3年たった現在、改善すべき点があれば、そのことも含めて質問します。

第3項目は津幡小学校の改築工事についての質問です。

最初に町長にお聞きします。予定地には小学校以外の建物も作る計画があると聞きましたが、なにを建設する予定ですか。また、現在の進捗状況はどのようになっていますか。

続いて教育長にお尋ねします。従来の校区のままでよいのかという、町民の声を聞いています。

校区の見直しは、町民の関心事でもあります。単に小学校への通学範囲の視点からのみ考えられるものでなく、地域の、今までの小学校区、中学校区による共同体意識も視野に入れた上での検討が必要で、長期的視野に立って、よく議論し調査したうえでの慎重な決定が望まれます。

教育委員会としても小中学校をあわせて、校区を見直す動きがあるようですが、校区の見直しはどのようにして行われますか。

#### 第4項目、全国選抜社会人相撲選手権大会について。

この大会は、安土・桃山時代の草相撲を起源とする八朔（はっさく）相撲としてその名をとどろかせた由緒ある相撲大会で、その最盛期である昭和30年代には、津幡小学校の一番上の坂から旧銀座通りを経て、今のミヤノ写真館あたりまで、あるいは以前のビッグ・ママやたかくら菓子店があったところまで、ずらりと露天商の屋台が立ち並び、津幡地域以外からもたくさんの人々が、八朔相撲を見にやってくる、まともに歩けないくらいに人々でごったがえしていたということです。津幡町史には八朔相撲は「昭和44年を最終として310年の伝統を閉じた」とありますが、八朔相撲の記憶は今も人々の心に残る、津幡町の文化資源として生きているはずで

です。昭和45年に現在の全国選抜社会人相撲選手権大会と改め、日本相撲連盟公認のタイトル戦となりました。昭和49年に編纂（へんさん）された津幡町史には、第一回全国選抜社会人相撲選手権大会には「全国から22チームが参加した。これを津幡名物にしようと努力し、商店街は協賛大売出しを展開している。」と書かれています。現在の全国選抜社会人相撲選手権大会は、その歴史と伝統を引き継いだものです。38回目を迎えた本年（ほんねん）は、団体決勝トーナメント戦には和歌山県庁、全大分、攝津倉庫、全石川、全熊本、京都市上下水道局、全東京、アイシン精機が戦って、全石川が団体戦で優勝しました。

かつては地方紙の一面トップ記事であった八朔相撲の報道が、いまや地域欄の片隅においやられている事実をふまえても、この大会からは、かつての熱気や人気失われつつあることは否定できない事実です。むしろ、大会は、おまけであったはずの小学校対抗子ども相撲以上の人気を町民から得てはいないのが現状ではないでしょうか。町長は、社会人団体の相撲大会がいまだに町民の支持を得ていると思っていますか。

また全国選抜社会人相撲選手権大会から、かつての人気の失われた理由は何だと思えますか。

この大会は平成17年度までは役場の商工観光課が担当してきましたが、平成18年度から、教育委員会の生涯教育課が担当しています。その理由は何ですか。「津幡名物にして、商店街協賛大売出し」といった大会当初の時代に比べると、大会のあり方が変わってきたということなのではないでしょうか。町の商店街活性化や観光的な意図から、教育、スポーツ振興へとその比重が変わってきたということなのですか。大会の意義、内容に変化があるのですか。

町はこのための経費として、今年平成19年度の予算には657万円を上げています。主な経費の内訳は、どうなっていますか。

また、選手団の旅費、宿泊費の全額を町が負担していると聞きましたが、本当ですか。

町長は、この歴史ある大会が、現在、町と町民にどのような意義をもたらしていると思えますか。

#### 第5項目、産業廃棄物処理場についてです。

数年前、倶利伽羅地区の河内区内に産業廃棄物の不法廃棄がありました。放置されたままの産業廃棄物の処理に困っているところに、ビコーという建築の廃材を処分する会社が産業廃棄物を処理することを条件に河内地区に産業廃棄物処分場を作るという動きがあったと聞きました。今年8月ごろの情報では、地元地権者の中で、反対の意見もあり状況は沈滞している、建設への大きな動きはないようだとのことでしたが、現在はどのようなのですか。町が知っている情報の開示を求めます。

産業廃棄物処理場については、環境汚染が最大の問題であり、地域環境への影響、汚水等によって津幡川が汚れる可能性についてなど自然への影響や、産業構造への影響が考えられ、慎重に判断されなければならない問題です。

最終的には県が許可しないと建設できないものですが、今後の動きによっては町として意見書で申し入れることは可能です。町としては、現在どのようにみているかその見解を問います。

また、同地区内の富田区で、倒産した産業廃棄物処分場がそのまま残され、現在競売にかけられていると聞きますが、解決の見通しはあるのかを伺います。

産業廃棄物処理場に関する問題は、土地を売買する一部の地元地権者によって決められるべき問題ではありません。舟橋地区のポートピア誘致の例に見られるように、町民が知らないうちに、地元の地権者の賛成を根拠に町が推進に協力するようなことがあってはならないし、あるいは、河合谷小学校の閉校問題にみられるように、地元の住民が計画を知るのが新聞報道によってであったということがないように、この問題は、町民に公にされるべきことだと考えます。

第6項目です。町の商業地域開発の見通しについて、町長に質問します。

11月、旧銀座通りのムラサが倒産、閉鎖いたしました。旧銀座通りは、いつかシャッター通りになるのではないかと町民の不安の声を聞きます。町長は中心街が衰退していく現状に、復興策としてどのようなことを考えているのか、お聞きしたい。

今年11月下旬に、相次いで大型ショッピングセンターがオープンしました。金沢市無量寺町に「アピタタウン金沢ベイ、」が年商100億円を目標に、内灘町には「コンフォモール内灘」が年商50億円を目指してオープンしたのです。さらに来年の秋にはかほく市で、イオンが北陸最大級の巨大ショッピングセンターを開業する予定です。

この相次ぐ大型ショッピングセンターの開業に対して、本町の商工業者には大きな不安を持っている方も見受けられます。津幡町にどのような影響が与えられると予測しますか。

さらに新聞紙上では、大型店の間で、共倒れの可能性もぬぐえない（朝日新聞）と報道されています。町民の消費生活を支えていたショッピングセンターが撤退した場合、町として商工業再生のプランはあるのでしょうか。

大規模なショッピングセンターにも、地域とともに発展していくという視点が大切で、地域力を養っていくような方向性を見出していかなければならないと思いますがどうか。

町長の見解を問います。

最後に、8月24日付けの北国新聞に、「澁谷工業、売上高初の500億円超、2007年6月期、全子会社が黒字化」という見出しのもとに、社長である澁谷弘利（ひろとし）氏の「引き合いを見ながら、森本工場か津幡工場に工場を新設したい」との記事がありました。そしてつい最近、11月28日の北陸中日新聞に、澁谷工業が金沢市の金沢テクノパークに専用工場を建設するという発表が掲載されています。

町長としてなんらかの行動があったのか、津幡工場の実現の見通しはあるのか、ないのか。（これは津幡町が澁谷工業の新工場誘致に失敗したということなのでしょうか。）

以上を町長に質問します。